

令和 7 年第 4 回 高千穂町議会定例会

一般質問通告内容集約書

高千穂町議会事務局

【 9 名 16 件 】

質問日	件数	質問者	件名	頁
12 月 16 日 (火)	2 件	市野 辰廣 議員	1. 水道水圧改善について 2. 観光客の車による誘導について	1
	1 件	磯貝 助夫 議員	1. 令和 9 年 1 月に任期満了となる町長選について	2
	2 件	桐木 敏隆 議員	1. 高千穂小学校の正面階段の撤去と、通学路の安全性確保について 2. サイト・ミタイ（商工会跡地）の活用について	3
	2 件	佐藤 孝子 議員	1. 山間地域の農業支援対策について 2. 高千穂まちづくり公社について	4
	2 件	板倉 哲男 議員	1. ふるさと納税について 2. 次期町長選に向けた取り組みについて	5
	3 件	田中 義了 議員	1. 高千穂町における物価高騰対策について 2. 神楽のユネスコ無形文化遺産新規提案候補選定について 3. 高千穂町の三田井市街地などの空き家・防火対策について	11
12 月 17 日 (水)	2 件	佐藤 さつき 議員	1. アグリファームの設立について 2. 現高千穂中学校のバリアフリーについて	13
	1 件	工藤 博志 議員	1. 中山間地域の振興について	14
	1 件	佐藤 春男 議員	1. 特産である「高千穂牛」の生産から販売までの町の施策について	15

順	質問者	件名	質問相手
1	市野 辰廣 議員	1. 水道水圧改善について	町長
質問の要旨			
<p>水道水圧は、最低 0.15MPa 以上～0.75MPa 以下であることが、水道法により定めてあります、三田井地区、東光寺では、水圧が低い為か各家庭において加圧ポンプやブースターポンプ等が設置されてはいますが、未設置宅では、時間帯によっては、生活に不便を感じているとの報告を受けています。町水道全体として、水圧は改善されていると思いますが、一部の地区だけポンプに頼る生活では他の地区のよりは経費が多いと思います。</p> <p>そこで、近くに水圧の改善用に受水槽付き加圧ポンプ設備を設置されてはいかがでしょうか。</p> <p>町長のお考えを聞かせてください。</p>			
順	質問者	件名	質問相手
1	市野 辰廣 議員	2. 観光客の車による誘導について	町長
質問の要旨			
<p>観光地として全国的にも知名度の高い高千穂町ですが、多くの観光の方々の皆さんにはありがとうございます。ただ週末や大型連休になりますと、一部の地区では、観光客の運転する車が侵入ってきて、離合等ができにくく、地域の方々の生活に支障が出て悩んでいることですが、中学校通りは道幅も狭く車の離合もままならない状況です。地元の方々の生活活動線を確保していただきたい。</p> <p>神殿の高千穂神社下交差点より、田口野団地下の通称中学校通り区間は許可車両のみの通行許可証等の配布にて、ガードマンを配置して交通規制をしていただけないか、町長のお考えを聞かせてください。</p>			

順	質問者	件名	質問相手
2	磯貝 助夫 議員	1. 令和9年1月に任期満了となる町長選について	町長
質問の要旨			
甲斐町政が令和9年1月18日をもって任期満了となり、それに伴い、令和8年12月には町長選が行われる予定であります。			
<p>現在2期目であり、間もなく7年が経過します。</p> <p>1期目では人口減少問題対策、基幹産業である農林業や観光の活性化、IT企業の誘致、子育て支援策、高齢者福祉の充実、3町連携による医療環境の充実等を図っていくとともに、新たな施策に取り組み「町民が希望を持って暮らせる町づくり」を目指すとのことでした。</p> <p>2期目では、「1期目でまいた種をどう実現させるか、2期目で花を咲かせ実を結ばせたい」と述べられました。</p> <p>これまで積極的に推進し実を結んだ事業も多くありますが、まだ花を咲かせきれない事業や、種をまいて芽の出でていない事業があるのも事実です。</p> <p>2期目もあと1年であります、事業の積極的な推進と、今後の町政方針をしっかりと固めていただきたい。</p> <p>以上を踏まえ町長に質問します。</p> <p>1 次期町長選出馬の意向は。</p> <p>2 任期残り1年の町政の取り組みをどう考えるか。</p>			

順	質問者	件名	質問相手
3	桐木 敏隆 議員	1. 高千穂小学校の正面階段の撤去と、通学路の安全性確保について	町長 ・ 教育長
質問の要旨			
<p>令和4年9月17日の台風14号により被災した高千穂小学校の正面階段が今般撤去されました。この間、3年の期間を有したことは教育環境の充実に重きを置く本町執行部の対応として理解に苦しみます。</p> <p>また高千穂小学校の正面階段は、在校生は基より卒業生にとっても思い出に残るものであり、正面階段は高千穂小学校の顔でもあると考えます。歴史と卒業生の記憶に残る階段を安易に撤去する結論を出したことは、町民の理解が得られたとは思いません。早期に現状復旧を求めるとともに発生から現在に至るまでの町当局の対応の経緯と今後の対応について次の通り説明を求めます。</p>			
<p>① 被災から本日までに至った経緯の説明 ② 被災から3年を要した原因 ③ 今回、復旧でなく撤去になった理由と現状復旧に対する考え方 ④ 現在の通学路（本組側・横町側）の登下校時における安全対策は</p>			
順	質問者	件名	質問相手
3	桐木 敏隆 議員	2. サイト・ミタイ（商工会跡地）の活用について	町長
質問の要旨			
<p>高千穂商工会の跡地が整備され、サイト・ミタイとして11月2日オープンイベントが開催され、市街地中心部に公園が整備されました。その後の利用者はまばらです。中心市街地の活性化の起爆剤とする観点からも、せっかく整備した公園が利用されなくては宝の持ち腐れです。この公園の利活用に対する町の考え方を伺います。</p>			
<p>① 公園は地元住民の利用を想定しているのか、観光客向けなのか。 ② 町としてイベントの開催やイベント誘致を考えているのか。 ③ 街燈が不足し防犯面も含め夜の利用がしづらい。街燈増設の考えはないか。 ④ 夜の利用も考えると、がまだせ市場のトイレの夜間使用ができる環境を考えるべきでは。</p>			

順	質問者	件名	質問相手
4	佐藤 孝子 議員	1. 山間地域の農業支援対策について	町長
質問の要旨			
<p>山間地域の農業支援は関係機関により幅広い支援が行われています。</p> <p>しかし、高齢化や担い手不足、一人農業世帯が増え農作業の支援が急務となっています。</p> <p>地域によっては農業法人や集落営農などで対応されていますが、高齢者や一人農業世帯にとっては耕地の管理がすでに出来なくなっているのが現状です。法面ステップの要望も多くあり順番待ちと聞いています。</p> <p>農作業に対応できる支援事業の立ち上げはできないでしょうか。</p> <p>早急な対応が必要だと思いますが町長の考えを伺います。</p>			
質問の要旨			
<p>私が鬼八の蔵の組合長の時に、高千穂まちづくり公社に移行するという説明を受けた時には、ふるさと納税の充実と生産者の収益アップ、町民のためのまちづくり公社だと聞いたように思います。</p> <p>しかし、ふるさと納税についてはシフトプラスに委託され、生産者の収益アップ、町民のためにというのも実現されていないように思えます。</p> <p>また、利益が出ていると説明は受けましたが、町からの助成金があつての利益なので赤字経営になっていると思います。</p> <p>赤字なのに人件費の多さにびっくりします。普通の会社経営ならありえないことですので町長に伺います。</p>			
<p>① 次年度に向けての経営方針について</p> <p>② 人件費の割合は何をもとにしているのか。</p> <p>③ 営業時間が9時から17時となっているが、17時は早いのではないか。</p>			

順	質問者	件名	質問相手
5	板倉 哲男 議員	1. ふるさと納税について	町長
質問の要旨			
ふるさと納税の受け入れ額の全国合計は年々増加しており、令和6年度の実績は、対前年比1.1倍の約1兆2728億円となりました。一方、本町におけるふるさと納税は、平成29年度の約1億8000万円をピークに伸び悩んでおり、令和6年度は1億6528万円でした。			
ふるさと納税は、取り組み次第で寄付金額を伸ばすことが期待できる歳入の一つです。今度、どのような取り組みができるのか、考えていきたいと思います。			
<p>(1) 町公式ホームページのふるさと納税案内ページの見直し</p> <p>ふるさと納税につきましては、これまで各ポータルサイトにおいて付与されていたポイント制度が廃止されました。そのため今後は、返礼品やポイントではなく、「この自治体を応援したい」という思いを動機とした寄付が増えることが見込まれます。</p> <p>例えば、本町のふるさと納税に興味を持った人がいたとして、その人は、まずインターネットで「高千穂町 ふるさと納税」と検索するはずです。広告を除けば、検索結果のトップには、本町がふるさと納税を案内しているページ（https://www.town-takachiho.jp/furusato/index.html）が表示されます。</p> <p>本町のふるさと納税案内ページを見てみると、トップページの下に、「高千穂町について」「ふるさと納税とは」「申し込み方法」「ふるさと納税活用実績報告」「企業版ふるさと納税」という複数のカテゴリページがあり、さらに、それぞれのカテゴリページの中にそれぞれの詳細ページがあります。例えば、「高千穂町について」の中に、「高千穂の概要」「高千穂町はどこ?」「町の組織・沿革」「町章・町花・町木・町鳥」「高千穂町民憲章」といった具合です。</p> <p>つまり、本町への寄付を検討される方が、本町のふるさと納税案内のトップページにアクセスした後、目的の情報にたどり着くまでに、何度もページを移動する必要がある構造になっています。</p> <p>利用者はページを移動する回数が増えるほど、途中で閲覧をやめてしまう傾向があり、一般的に1クリックごとに、30%～50%離脱すると言われています。特にスマートフォン利用者は、その傾向が顕著であるとされています。</p> <p>本町のふるさと納税案内ページに来てくれた人の関心を途切れさせることなく、町の取組や寄付金の使い道をしっかりと伝え、寄附をする最終的な手続きに進んでいただくためには、情報をできる限り一つのページにまとめ、見やすく整理することが有効であると考えます。(県内では串間市のふるさと納税案内ページがそのようなつくりとなっています。)</p>			
〈次頁に続く〉			

以上のことから、ふるさと納税案内ページの構成を見直す必要があると考えます。

（2）ガバメントクラウドファンドの取り組み

ポイント付与がなくなることで、今後、増加が見込まれるものが、ガバメントクラウドファンドです。

一般のふるさと納税は、自治体を選んで寄付し、そのお礼として返礼品を受け取ることが中心であり、寄付者は自治体の政策内容よりも返礼品の魅力を重視する傾向があります。一方で、ガバメントクラウドファンドは、自治体が進めたい特定の事業を明確に掲げ、その目的に共感した人から寄付を募る仕組みです。ガバメントクラウドファンドに取り組むことで、これまで財源や制度の制約で実施できなかった事業に取り組める可能性がありますし、国や県の補助がなく町の単独事業として行っている既存事業について、財源面での支援を受けられる可能性があります。

しかし、本町では今までガバメントクラウドファンドに取り組んだことがありません。本町においても、ガバメントクラウドファンドに取り組んではどうかと思います。

（3）ふるさと納税公式 SNS

自治体の取り組みや想いに共感していただき、寄付をしていただくには、まずは、自治体自らが積極的に情報発信することが極めて重要です。また、情報発信をするうえで、SNSを活用した発信が有効だといわれています。

先ほどのふるさと納税案内ページは、ふるさと納税に関する正確な情報を提供する場です。一方で、ふるさと納税公式 SNS は、寄付者との関係を構築し、共感を高める場です。ここでは、自治体の取り組みの紹介や、寄付による成果の報告などが発信することが求められます。

本町においても、ふるさと納税公式 SNS の運用を開始してはどうかと思います。

（4）返礼品提供事業者によるふるさと納税の PR

ふるさと納税で多くの寄付を集めていることで知られている都城市には、ふるさと納税の返礼品提供事業者で組織された「都城市ふるさと納税振興協議会」という任意団体があるそうです。また、その団体の活動内容としては、ふるさと納税を含めた市の PR や、返礼品を使ったレシピの紹介、都市部でのイベント開催によるファンづくり、事業者間の情報共有などだそうです。さらに、それらの活動に必要な費用について、市は全く負担しておらず、それぞれの事業者が返礼品を提供することで得た売上的一部分を負担することで賄っているそうです。

ふるさと納税の制度には、寄付金額に対し、返礼品の調達費用や送料、広告費などを含めた経費が5割以下でなければならないというルールがありますが、都城市ふるさと納税振興協議会の活動は、市の予算が入っていないことから、5割ルールの対象外となるそうです。

〈次頁に続く〉

ふるさと納税推進のためには、官民の更なる連携・協働が必要だと考えます。まずは行政が旗振り役となり返礼品提供事業者の会を組織し、組織後は民間主導で本町のふるさと納税をPRする仕組みづくりを検討してはどうかと思います。

（5）外部人材の活用

医療分野では、治療方針の妥当性を確認するためにセカンドオピニオンを求めることがあります。これと同様に、本町のふるさと納税業務につきましても、現在の委託事業者とは別の視点を得るため、外部の専門人材を活用し、業務内容の検証や改善提案を受ける仕組みを導入してはどうかと考えます。

鳥取県湯梨浜町では、リモートによる月20時間の業務について、月額5万円で外部人材を活用し、ふるさと納税の推進に取り組んだという事例もあるようです。

そのような外部からの評価・助言の仕組みを導入してはどうかと思います。

以上を踏まえ、以下について伺います。

- ① 町公式ホームページのふるさと納税案内ページについて、情報をできる限り一つのページにまとめ、見やすく整理してはいかがでしょうか。
- ② ふるさと納税の寄付額を増やすため、ガバメントクラウドファンドに取り組んではいかがでしょうか。
- ③ ふるさと納税に特化した、町公式SNSを開設してはいかがでしょうか。
- ④ 返礼品提供事業者による、ふるさと納税関連の情報発信の仕組みをつくってはいかがでしょうか。
- ⑤ ふるさと納税の推進に向け、外部人材を活用し、外部からの評価・助言をしてもらう仕組みを導入してはいかがでしょうか。

順	質問者	件名	質問相手
5	板倉 哲男 議員	2. 次期町長選に向けた取り組みについて	町長
質問の要旨			
<p>本年9月の高千穂町議会議員選挙の投票率は73.6%でした。4年前の2021年の町議選では76.9%、7年前の2018年の町長選では80.1%、8年前の町議選では81.2%となっており、投票率は減少傾向となっています。投票率の低下が続けば、民主主義の基盤である住民の意思の確実な反映が十分に果たされなくなるのではないかという懸念があります。</p> <p>そして、来年の2026年は、本町の町長選があります。町長選の投票率が向上するよう、どのような取り組みができるのかについて、考えていきたいと思います。</p>			
<p>(1) 主権者教育の充実</p> <p>本町においても全国的な傾向と同様に、若年層ほど投票率が低い状況が続いております。 (2025年町議選年代別投票率 10代:41%、20代:50%、30代:67%、40代:74%、 50代:79%、60代:85%、70代:86%、80代以上:56%)</p> <p>将来、本町を担う若い世代が、政治や選挙に関心を持ち、自らの意思を投票によって示していくことは、地域の民主主義を持続的に支えるうえで極めて重要です。より多くの若い世代が投票に行くには、若いうちから選挙制度の仕組みや、投票することの意義を正しく理解してもらう主権者教育の充実が不可欠であると考えます。</p> <p>近年の主権者教育の取り組みについて、町選挙管理委員会に確認したところ、2019年と2021年に、高千穂高校の要請に応じる形で、高校の生徒会役員選挙時に選管職員による講話を行った、とのことでした。</p> <p>年代別の投票率は、10代の投票率が最も低い現状にあることを考えると、要請に応じるだけでなく、町が積極的に働きかけ、高校生、さらには小中学生への主権者教育の充実を図る必要があると考えます。</p> <p>また、主権者教育もかねて、高校生を含めた若い世代の有権者を対象に、選挙事務従事者を募集することも有効な取り組みと考えます。</p>			
<p>(2) 選挙公報の発行</p> <p>投票率が低い要因の一つとして、誰に投票すればよいのかわからない、ということもあるようです。</p> <p>この課題を解決するための最も公平で、全ての候補者に等しく情報発信の機会を保障する仕組みが、選挙公報です。選挙公報は、候補者の政策や人物像をコンパクトに比較でき、有権者が自宅で落ち着いて検討できる大変有効な情報源です。</p> <p>しかし、選挙公報の発行は義務ではなく、自治体が任意で行うことができるものであり、現在、本町では、選挙公報を発行しておりません。</p> <p style="text-align: right;">〈次頁に続く〉</p>			

町議選において、本町は投票日を平日に設定しているため、選挙期間に土日が入ることもあり、選挙公報の作成や全戸配布が物理的に難しいという事情があることは承知しています。

しかし、近年の町長選は、投票日が日曜日であるため、選挙公報の発行は可能だと考えます。また、選挙公報が任意のものであることから、町議選では発行しないが、町長選のみ発行するという運用も問題ないと考えます。

次期町長選において、選挙公報を発行してはいかがでしょうか。

（3）期日前投票所の増設

近年の投票行動の傾向として、期日前投票をする人の割合が増加傾向にあります。

（本町の当日有権者に対する期日前投票者の割合 2025年町議選：33%、2021年町議選：28%）

全体の投票率が下がっているにもかかわらず、期日前投票をする人の割合が増えていることから読み取れるのは、有権者は、より自分の都合に合わせて投票しているということです。

であれば、投票へのアクセスが、より容易な環境を整備することで、投票率を向上することができると思います。

具体的には、期日前投票所を増設することが有効と考えます。

以前にも期日前投票所を、商業施設や出張所などに増設してはと提言をしましたが、その後検討は進められているでしょうか。

（4）子連れ投票の推進

総務省の調査によると、小さい頃に親の投票についていったことがある人は、有権者となつた際に投票に行く割合が高いことが示されています。そうしたことから、子連れ投票を促す取り組みを実施している自治体があります。中には、保護者とともに投票所に来た18歳未満の子どもに対し、お菓子や、カプセルトイをプレゼントしているところもあるようです。

子連れ投票の推進についても、以前、提言した内容ですが、提言の後に、どのような検討がなされ、どのような取り組みがなされているでしょうか。

また、本町においても、先にあげた事例のような取り組みをしてはいかがでしょうか。

（5）オリジナルデザインの投票証明書の発行

投票証明書とは、選挙人が投票を行った際に、希望者に対して選挙管理委員会が任意で発行するもので、投票をしたことを証明する公的な証明書です。

法律上、発行義務はなく、発行するかどうか、またデザインをどうするかは自治体の判断に委ねられています。

〈次頁に続く〉

沼津市では、今年7月の参議院選挙の際に、その地が舞台となるアニメキャラクターがデザインされた投票証明書を発行したところ、予想以上に希望者が多く増刷したそうで、投票所へ足を運ぶきっかけのひとつとしては、有効であったようです。

本町においても、本町が舞台のアニメとコラボした実績がありますので、そうしたアニメのキャラクターがデザインされたオリジナルの投票証明書を発行できないかと思います。

あるいは、住民からデザインを募集するのもよいと思います。

本町においても、魅力的な投票証明書を発行してはいかがでしょうか。

上記をふまえ、以下を伺います。

- ① 小中高校生への主権者教育の充実を図る必要があると考えます。町長選に向けて、どのような取り組みをお考えでしょうか。
- ② 主権者教育の一環として、高校生を含めた若い世代の有権者を対象に、選挙事務従事者を募集してはいかがでしょうか。
- ③ 次期町長選において、選挙公報を発行してはいかがでしょうか。
- ④ 以前、期日前投票所を商業施設や出張所などに増設してはと提言をしましたが、その後、検討は進められているでしょうか。
- ⑤ 以前、子連れ投票の推進についても提言しましたが、その後、どのような検討がなされ、どのような取り組みがなされているでしょうか。また、事例のような取り組みをしてはいかがでしょうか。
- ⑥ 本町ならではの、魅力的な投票証明書を発行してはいかがでしょうか。

順	質問者	件名	質問相手
6	田中 義了 議員	1. 高千穂町における物価高騰対策について	町長
質問の要旨			
<p>① 国の補正予算案には物価高騰対策事業が組み込まれているようだが、本町として、どのような事業が考えられるのか。</p> <p>② 電気料金・ガス料金の補助事業があるが、ガス料金は都市ガス使用者に限定されているのか。都市ガスのない地域の人々の使うプロパンガスに対する補助事業を町として考えられないか。</p> <p>③ 町内の消費者物価調査は行われているのか。</p> <p>④ 農家における肥料や飼料の購入費高騰対策はどのようにされているのか。</p> <p>⑤ 学校給食費の保護者負担分を無料にすることは出来ないのか。</p>			
順	質問者	件名	質問相手
6	田中 義了 議員	2. 神楽のユネスコ無形文化遺産新規提案候補選定について	町長
質問の要旨			
2028年12月頃に登録予定だが、その間、町の支援強化策は。			

順	質問者	件名	質問相手
6	田中 義了 議員	3. 高千穂町の三田井市街地などの空き家・防火対策について	町長
質問の要旨			
<p>① 三田井・岩戸・上野・河内各市街地における空き家調査を行っているか。</p> <p>② 各市街地における空き家戸数の実数は。</p> <p>③ 各市街地における消火栓設備や防火水槽などの防火対策は充分か。</p>			

順	質問者	件名	質問相手
7	佐藤さつき 議員	1. アグリファームの設立について	町長
質問の要旨			
<p>農業の後継者不足や、地域の草刈りなどの課題解決、町が取り組んでいる有機野菜などの生産に関する取り組み、雇用創出の場等として、本町の課題を総合的に解決するために、アグリファームを立ち上げてはと考えます。次の点から町長の考えを伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 専業、兼業を問わず後継者がいない農林業の世帯はどれくらいいるのか。 ② 近年ではアグリヘルパーに依頼されている世帯が増加しているが、一部及び全過程含めて、どれくらいの利用があっているのか。 ③ 町民及びアグリヘルパーの方々も含めて、町外のアグリファームを利用されている方々はどれくらいか。また、利用内容は。 ④ 新たに本町が取り組んでいる有機野菜生産の取り組みについて、現状と今後の目指すところは。 ⑤ 以前より議員の方からも、草刈りの課題解決について意見が出されているが、農林業の担い手不足、草刈り問題等、総合的に対応できるように、アグリファーム設立の考えは。 			
順	質問者	件名	質問相手
7	佐藤さつき 議員	2. 現高千穂中学校のバリアフリーについて	町長 ・ 教育長
質問の要旨			
<p>現高千穂中学校は老朽化しているため、バリアフリーに関する環境整備も課題となっています。早急な移転新築が進まないため、現状通学している生徒は不便な点も見受けられます。支援の必要な生徒への配慮も含めた環境整備はハード面もソフト面も行われているのか、町長及び教育長に伺います。</p>			

順	質問者	件名	質問相手
8	工藤 博志 議員	1. 中山間地域の振興について	町長
質問の要旨			
<p>少子高齢化・人口減少は加速度的に進んでいることはご承知のとおりであります。多くの産業で人材・人手不足の課題を抱え、加えて長引く物価高騰の影響で町民をはじめ事業者は大変厳しい状況にあります。中山間地域の振興が図られ持続可能な地域社会が形成されるために、いくつかの項目ごとに質問いたします。</p>			
<p>1 中山間地での人材確保の取り組みについて 多くの集落が点在する中、基幹産業である農林業のほとんどが小規模経営体であります。また、高齢化・人口減により持続化が困難な状況であることは承知のとおりであります。中山間地域を維持していくための多様な人材確保と育成について、農林業分野・商工業分野・土木建築分野などそれぞれに伺う。</p> <p>2 中山間地での地域交通環境整備について 地域交通の利便性向上は喫緊の課題であり、住民の生活の質の向上や地域活性化に繋がります。地域交通の運行体制については現行のふれあいバスの充実、道路インフラ整備について、カーブの拡幅や待避所の設置など具体的に伺う。</p> <p>3 中山間地での住環境整備について 自治体の公共料金未払いの実態が明らかになったNHK受信料ですが、各世帯では、受信料を払っているにもかかわらず、受信できても画像が鮮明でなかったり、ラジオ受信が困難あるいは携帯電話の不通など受信機能の不感地帯がまだあるようです。解消と取り組みについて伺う。</p> <p>4 中山間地での伝統文化の継承と維持について 夜神楽をはじめとして、臼太鼓踊り・棒術・淨瑠璃伝承や国・町指定の天然記念樹の維持管理を先祖代々引き継がれてきている地域文化は、郷土の誇りであり愛着を感じます。伝統文化を守り地域文化の衰退を招かないような方策について伺う。</p> <p>5 中山間地での近隣市町村との連携について 国が打ち出した地方創生策の効果は、中山間地域にはいまだ恩恵もなく、なにも見えてきていながら実情だろうと考えます。 西臼杵地域においては、中山間地全体の持続可能な発展のため、医療・福祉・介護や救急・消防などの分野で近隣の市町村で連携し、安心して住み続けられる環境づくりを実施しています。これは住民サービスの充実向上に繋がり、移住・定住の促進や地方創生策と考えていますが、今後の広域行政事務組合の運営の方向性について伺います。</p>			

順	質問者	件名	質問相手
9	佐藤 春男 議員	1. 特産である「高千穂牛」の生産から販売までの町の施策について	町長
質問の要旨			
<p>肉用牛生産を取り巻く情勢はめまぐるしく変化しています。</p> <p>(1) 過去5年間町としてどのような施策対応をし、結果として現状を受け止めているか伺います。</p> <p>(2) 今後の見通しと、それに対して、継続していく施策に加え、新規の事業構想について伺います。</p> <p>(3) 「子牛相場」「子牛出荷頭数」の推移について率直なご意見を伺います。</p>			